

「七十二人の帰還」

ルカの福音書 10:13~24

はじめに

皆さんは今日、何を求めてここに集まっておられますか。問題や悩みを解決するための主からの知恵や力を求めて来られましたか。または恐れや不安に対する心の平安、揺るがない信仰、あるいは癒やしや解放の奇蹟を求めてでしょうか。もしかすると今日何らかの主からの働きかけがあり、それらの求めに対する答えを得て帰ることができるかもしれません。しかし私が今日ここで語るようにと主から与えられている御言葉は、その解き明かしは、神であられる主が求めておられるものについて、主が成し遂げようとしておられることについてのものです。皆さんが願い求めるよりもはるか昔、永遠の初めから、父なる神が子なる神によって、すなわちメシアであるイエシュアによって、その成し遂げたいと願われ、求め続けておられ、そしてやがて必ず成し遂げられるご計画についてです。主は今日ここに集まっておられる、つながっておられるすべての人にこれを聞くように、信じて受け入れるようにと願い、求めておられ、そのために私たちを集められました。つまりこの礼拝、この集会、この集まりは私たち人の求めによってではなく、主の求めによって成り立っていることを覚えてください。私たちが求める前に、主が私たちを求めておられ、選んでお集めになったのです。主の御声、御言葉を聞く者として、すなわち主の願い、主の求め、神のご計画を聞く者として、私たちが集められていることをまず覚えてください。そして今日も神のそのご計画についての御言葉に耳を傾けてまいりましょう。

前回に引き続き、イエシュアが 72 人の弟子を 2 人ずつ遣わされた出来事が今日の内容です。この 72 人とは、やがて終わりの日に起こされる「イスラエルの残りの者」を表す「型」であると述べました。そしてそれは同じく終わりの日に現れる「二人の証人（黙示録 11 章）」によって起こされる「天の神に栄光を帰した（黙示録 11:13）」者たちであると述べ、その数は 144,000 人（黙示録 7:4）であると述べました。彼らは「神の国」すなわち千年王国を宣べ伝え、その王であるイスラエルのメシア、神の御子イエシュアを証しする、イスラエルの中から選ばれた福音の「戦士」たちとなります（民数記 31:4）。聖書の解き明かしにおいて、ヘブル語と同じくらいに重要なものが数、数字です。聖書に記された数にはすべて意味があるのです。以下の式を見てください。

$$72(\text{イエシュアに遣わされた者}) \times 2(\text{二人の証人}) \times 1000(\text{イスラエルの選ばれた戦士}) \\ = 144000(\text{イスラエルの残りの者})$$

このように、数の面において 72 と 144000 はつながっており、イエシュアは終わりの日に起こされる 144,000 人のイスラエルの残りの者を指し示してこの 72 人を遣わされたのです。ではその彼らについてのさらなる奥義を紐解いてまいりましょう。

1. さばき

ルカの福音書【新改訳 2017】

10:13 ああ、コラジン。ああ、ベツサイダ。おまえたちの間で行われた力あるわざが、ツロとシドンで行われていたら、彼らはとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって座り、悔い改めていたことだろう。

10:14 しかし、さばきのときには、ツロとシドンのほうが、おまえたちよりもさばきに耐えやすいのだ。

10:15 カペナウム、おまえが天に上げられることがあるだろうか。よみにまで落とされるのだ。

10:16 あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾け、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのです。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒むのです。」

神の「さばき」と聞くと恐ろしいイメージだけを持ってしまいがちですが、これを意味するヘブル語デイン(דַּיִן)は本来、このような意味で用いられました。

創世記【新改訳 2017】

15:13 主はアブラムに言われた。「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。

15:14 しかし、彼らが奴隷として仕えるその国を、わたしはさばく。その後、彼らは多くの財産とともに、そこから出て来る。

このように、「さばく」ことはアブラハムの子孫すなわちイスラエルの民が、彼らの神であられる主によって異邦の地での奴隷状態から解放され「多くの財産とともに、そこから出て来る」ことを意味する言葉なのです。それはモーセの時代にエジプトの奴隷から解放されたイスラエルの民の上に成就しましたが、それは終わりの日に起こることの予表「型」であり、その日には地上再臨されるメシア、イエシュアによって獣と呼ばれる反キリストの支配から解放されることによって成就します。ですからここに記されている「コラジン」と「ベツサイダ」という地名には、その反キリストとそれに従う国々の存在が指し示されています。

①コラジン

コラジン(כּוֹרַזִּין)という名の中には「伝令官」という意味のカーローズ(כָּרוֹז)という言葉を見つけることができます。これは旧約聖書で以下の箇所にも使われています。

ダニエル書【新改訳 2017】

3:1 ネブカドネツアル王は金の像を造った。その高さは六十キュビト、その幅は六キュビトであった。彼はこれをバビロン州のドラの平野に建てた。

3:4 伝令官は力強く叫んだ。「諸民族、諸国民、諸言語の者たちよ。あなたがたはこう命じられている。

3:5 …ひれ伏して、ネブカドネツアル王が建てた金の像を拝め。

3:6 ひれ伏して拝まない者はだれでも、即刻、火の燃える炉に投げ込まれる。」

3:7 それで、すべての民…諸民族、諸国民、諸言語の者たちは、ひれ伏して、ネブカドネツアル王が建てた金の像を拜んだ。

このように、「**伝令官**」カーローズにはバビロンの王にひれ伏し、聞き従う「すべての民…諸民族、諸国民、諸言語の者たち」の存在が指し示されており、終わりの日の大バビロンの王となる獣、反キリストに従う国々を指し示しています。

②ベツサイダ

またベツサイダ(**בֵּית צִיְדָן**)「漁師の家」という意味のこの名にあるツアيد(**צַיִד**)は本来、魚ではなく獣を捕る「**獵師、狩人**」という意味で以下のように使われました。

創世記【新改訳 2017】

10:8 クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の勇士となった。

10:9 彼は【主】の前に力ある**狩人**であった。それゆえ、「【主】の前に力ある**狩人**ニムロデのように」と言われるようになった。

10:10 彼の王国の始まりは、バベル…でシニアルの地にあった。

「**バベル**」すなわちバビロンの王で、「(神に) 逆らう者」という意味の「**ニムロデ**」、彼を指し示す言葉がこの「**狩人**」ツアيدです。彼は全地がまだ一つの言葉であった時代(創世記 11:1)の最初の王、つまり世界を統一した王であり、この存在はもちろん反キリストを指し示しています。

このように、ここでイエシュアが言われた「**ああ、コラジン。ああ、ベツサイダ**」とは終わりの日の反キリストとそれに従う世界の国々を指し示す預言であり、その支配の中から「**さばく**」すなわち「**多くの財産とともに、そこから出て来る**」イスラエルの残りの者 144000 人の存在に対する神のご計画を語っておられるということなのです。ちなみに「**ツロとシドン**」という名についてですが、エゼキエル書 28:11~23 の預言で墮落したケルビムとしての悪魔サタンを「**ツロの王**」と呼んでおり、イエシュアはこの預言から「**ツロとシドン**」を悪魔サタンと悪霊どもの「**型**」として預言しておられると考えられます。なぜなら終わりの日のサタンと悪霊どもに対するさばきは、獣、反キリストとそれに従う偽預言者たちに比べると、それは軽い「**耐えやすい**」ものだからです。こう預言されています。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

19:20 しかし、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた者たちと、獣の像を拜む者たちを感わした偽預言者も、獣とともに捕らえられた。この両者は生きたまま、硫黄の燃える火の池に投げ込まれた。

20:1 また私は、御使いが底知れぬ所の鍵と大きな鎖を手にして、天から下って来るのを見た。

20:2 彼は、**竜、すなわち、悪魔でありサタンである古い蛇**を捕らえて、これを千年の間縛り、

20:3 千年が終わるまで、これ以上諸国の民を惑わすことのないように、底知れぬ所に投げ込んで鍵をかけ、その上に封印をした。その後、竜はしばらくの間、解き放たれることになる。

このように、獣は火の池に投げ込まれますが、サタンは千年間封印されるだけです。もちろん最終的にはサタンも獣と同じ火の池に投げ込まれるのですが（黙示録 20:10）一旦は獣に比べればそれは軽い処遇となります。それがイエシュアの預言された「しかし、さばきのときには、ツロとシドンのほうが、おまえたち（コラジンとベツサイダ）よりもさばきに耐えやすいのだ」という御言葉には秘められているのです。

そして「慰めの村」という意味の「カペナウム(קַפְּרַנְתָּאֵם)」についてですが、この名には「慰める」という意味のナーハム(נָחַם)が込められているのですが、コラジンとベツサイダ、ツロとシドンと並べ称され、「よみにまで落とされるのだ」と宣告されています。つまりこれらの町々に指し示された反キリストとサタン、およびこれらに従う者たち、すなわち神に敵対する者に対する慰めは、天はもちろんのこと、この地上にさえない、彼らが慰められることなど永遠にないということが言い渡されているのです。そのような裁きが、刑罰としての神のご計画がイエシュアを、父なる神を「拒む者」すべての上に成就するのです。

2. 蛇やサソリ

ルカの福音書【新改訳 2017】

10:17 さて、七十二人が喜んで帰って来て言った。「主よ。あなたの御名を用いると、悪霊どもでさえ私たちに服従します。」

10:18 イエスは彼らに言われた。「サタンが稲妻のように天から落ちるのを、わたしは見ました。」

10:19 確かにわたしはあなたがたに、蛇やサソリを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けました。ですから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。

10:20 しかし、霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

イエシュアはこの 72 人に「蛇やサソリを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威」をお与えになりました。この「蛇やサソリ」とは厳しい「荒野」の旅路を指す表現です。

申命記【新改訳 2017】

8:15 燃える蛇やサソリのいるあの大きな恐ろしい荒野、水のない乾ききった地を通らせ、硬い岩からあなたのために水を流れ出させ、

8:16 あなたの父祖たちが知らなかったマナを、荒野であなたに食べさせてくださった。それは、あなたを苦しめ、あなたを試し、ついにはあなたを幸せにするためだったのである。

かつてモーセに率いられエジプトを脱出したイスラエルの民が「燃える蛇やサソリのいるあの大きな恐ろしい荒野」の過酷な旅を経験しましたが、主から与えられた水とマナによって養われ、守られました。終

わりの日には 144000 人のイスラエルの残りの者たちがこれを経験します。それは反キリストがエルサレムの神殿を奪い、イスラエルの民を根絶やしにしようと追い回し、この「荒野」のような過酷な状況に追いやるためです。その預言が以下に記されています。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

12:6 女は荒野に逃れた。そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった。

12:7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルとその御使いたちは竜と戦った。竜とその使いたちも戦ったが、

12:8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。

12:9 こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。

「蛇やサソリ」にたとえられた「荒野」におけるイスラエルの旅路を指し示しつつ「サタンが稲妻のように天から落ちるのを、わたしは見ました。」とイエシュアが言っておられる理由が上記の預言を指し示すためであることがわかります。つまり天での戦いに敗れたサタンが、ならば地上を支配しようと選びの民イスラエルに襲いかかることが預言されているのです。まさにこう預言されています。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

12:17 すると竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスの証しを堅く保っている者たちと戦おうとして出て行った。

しかし「敵のあらゆる力に打ち勝つ権威」によって「女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスの証しを堅く保っている者たち」であるイスラエルの残りの者たちは守られます。この権威はサタンと反キリストを退け、打ち負かす力ではなく、その脅威から守られ、滅ぼされないという、耐える力、防御、防衛の力のことです。ちなみに「権威、権力を行使する」という意味の動詞シャーラト(שָׁרַט)と同じ綴りの名詞シエレト(שֵׁרֵט)は、敵の攻撃を防ぐ「盾」という意味なのです。このように終わりの日における大きな患難の中にあっても最後まで守られる、まさに生き残る、イスラエルの残りの者たちの姿が、このイエシュアが遣わされた 72 人のうちには表されているのです。

そしてイエシュアは「霊どもがあなたがたに服従すること」すなわち「御名を用いる」こと、主の「御名」について喜ぶのではなく、天にある「あなたがたの名」について喜びなさい、というのはイエシュアのちょっとしたダジャレ、ユーモアかもしれません(笑)。多くの人に名前が知れわたることを「有名」になるといいますが、たとえ誰にも知られなくても、天に名が記され、そこに私の名が有る「有名」となることこそが重要であり、私たちの喜びとなるべきものです。

3. 幼子たち

ルカの福音書【新改訳 2017】

10:21 ちょうどそのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ、これはみこころにかなったことでした。

10:22 すべてのことが、わたしの父からわたしに渡されています。子がだれであるかは、父のほかはだれも知りません。また父がだれであるかは、子と、子が父を現そうと心に定めた者のほかは、だれも知りません。」

「知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました」というこの御言葉にある「幼子たち」は、よく教会や自分自身に置き換えて理解してしまいがちですが、今日の内容はイスラエルの残りの者たちを指し示していることを忘れてはなりません。ここに使われている「幼子」という意味のアーラル(אילן)は本来、「苦しめる、厳しく扱う(出 10:2)」という意味の言葉であり、また「取り残しの実、落穂」という意味の言葉でもあります。それはまさに大患難の中で苦しめられ、残される者たちであるイスラエルの残りの者にほかなりません。彼らはその中で「父がだれであるか」すなわち父なる神の御心、ご計画を知り、「子がだれであるか」すなわち御子イエシュアが父のご計画をどのように成就されるかを知るように選ばれた「子が父を現そうと心に定めた者」となるのです。

4. 幸いな目

ルカの福音書【新改訳 2017】

10:23 それからイエスは、弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。「あなたがたが見ているものを見る目は幸いです。

10:24 あなたがたに言います。多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たいと願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けませんでした。」

それからイエシュアは「弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われました」とあります。これは十二弟子のことであり、また今やイエシュアの弟子となり、弟子たちが「見ているものを見る目」を与えられている私たち教会に対してのものであります。そしてそれは「幸いです」とイエシュアは言われました。そして次の

「多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たいと願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けませんでした」

という御言葉は、先ほどの

「あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。」

という御言葉の言い換え表現です。つまりこの二つの文章表現はパラレリズムで同じ意味、同じ内容を指し示しているということです。「あなたがたには神の国の奥義を知ることが許されています(ルカ 8:10)」とも言われているように、72 人のうちに現わされたイスラエルの残りの者に開かれる真理は、イエシュ

アを信じる私たち教会にも等しく開かれます。現にこうして今日も私たちは終わりの日について、神のご計画の完成である「神の国」のその奥義を聞くことが許されています。

多くの人が将来どころか明日をも知れず、今だけを見つめ、あるいは過去を懐かしみながら、あるいは後悔しながら今を生きています。しかし私たちはやがて必ず来られる主イエシュアを待ち望み、この御方によって救われること、すなわち新しい朽ちることのない身体によみがえらされること、そして「神の国」に迎え入れられることを知らされています。この事実、真実を知り、そして信じ、このような神のご計画に目を留めることができるとはなんといいのでしょうか。それはまさに「[あなたがたが見ているものを見る目は幸いです](#)」と言われているとおりです。

たとえ今がどんなに楽しくても、もし明日大きな苦しみが待っているとしたら、その人は幸いですでしょうか。しかし逆に、今は苦しくても、後に永遠の祝福が約束されているとしたら、その人は必ず幸いな人となるのです。私たちの目をやがて来る神のご計画の完成に、「神の国」に向けましょう。